

2023年6月19日

報道機関 各位

長崎大学の「まちなか移転」にかかる検討の終結について

○内容：別紙のとおり

・6月19日(月) 16時 リリース

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学施設部施設企画課 TEL 095-819-2130

長崎大学の「まちなか移転」にかかる検討の終結について

■これまでの経緯

令和4年8月に開催された第24回長崎サミットにおいて、本学の「まちなか」への移転について意見があったことを受け、長崎県・長崎市から協力を得ながら、移転による本学の「将来的な絵姿」の検討を進めてきた。その後、令和5年2月の第25回長崎サミットにおいて、情報データ科学部、経済学部及び多文化社会学部の3学部を移転候補部局とし、県営常盤駐車場及び県営常盤南駐車場を移転候補地とすることを表明し、移転の実現性についてさらに検討を深めてきたところである。

候補地が持つロケーション上の魅力を生かし、オープンイノベーションの取り組みを進め、周辺環境との相乗効果による若者が集う活気あるキャンパスの創造を目指し検討を進めてきたところであり、そのことによる本学の社会的存在価値の向上及び地域への波及効果を企図していたところであるが、以下の事由により、同駐車場を候補地としたキャンパス移転計画を断念することとした。

■検討終結の事由

1. 令和4年の出生数が80万人を割るなど、少子化が従来の国の見立てより10年以上早いペースで進行していることが明らかになり、国においても大学の「規模」の議論を加速することが予定されている。

本学においても令和5年度の一般選抜（前期日程）における競争率が大学全体で2.0倍を切る結果となった。とりわけ移転候補としていた学部は2.0倍を下回る競争率であり、デジタル系学部定員の都内での規制緩和、国際系学部における入学志望者の低迷及び経済・経営系学部の都市部への人気集中など、大学を取り巻く状況の変化を踏まえ、本学が学生に選ばれる大学として存続していくための大学改革及び教育環境整備を、より一層の緊急性をもって取り組んでいく必要があると判断した。

2. 本学は「プラネタリーヘルスに貢献する大学へと進化する」という将来像を掲げ、複雑化する社会的課題に対応するための改革を推進してきたが、「プラネタリーヘルス」を今後とも本学の特色、強みとして幅広く全学的な学際連携・融合を推進していくためには、キャンパス計画の見直しや各学域の集約が必要であると判断した。

3. 国立大学の施設整備予算は極めて厳しい状況にあり、移転整備事業は支援の対象外が基本的方針である。近年の建設費高騰及び、長崎市における土地価格の推移等の状況を踏まえ、移転に関わる財源確保の見通しについての長期的なリスクを考慮し、より確実な事業スキームを検討する必要があると判断した。

なお、本学の各キャンパスの機能再編及び、そのことを踏まえた地域との連携強化について今後更に検討を進めていくこととしている。